

知覧特攻平和会館建設に至った経緯や館の目的について  
南九州市

(1)目的について

「二度と悲惨な戦争を起こしてはならない」との平和のメッセージを発信し、平和の大切さ、命の尊さを語りつぎ、世界恒久の平和に寄与することを目的としている。

(2)経緯について

日本経済が安定成長期に入った昭和40年代、少飛会、特捜会など関係者から「特攻銅像の建立」と「遺品館」建設の声が続出し、全国からまた一般有志の方々に募金を呼び掛けて浄財による建設が計画されましたが、昭和48年第一次オイルショックにより計画が頓挫したが、昭和49年運動公園の休憩施設として過疎債を利用し「特攻遺品館」を建設した。

当初、鉄筋コンクリート2階建て、500㎡位、30,028,000円で建設されたが現在では資料等が増えて増築やら場所を移しての面積1,607㎡金額501,899,000円、さらに展示室356㎡金額34,544,000円となっている。さらに、今日までに3,193㎡合計建物敷地面積10,298㎡となっている。

事業内容について

(1)資料収集、保存活動

遺族の世代交代、資料敬逸、減逸などで収集、保存展示に努め特攻の史実を後世に正しく伝える。

(2)教育普及活動

館内案内人（語り部）5人が入館者に説明案内をしている。5人の語り部は元知覧高等女学校（なでしこ隊の女生徒）の子孫

入館者数	H25	H26	H27	H28	H29
	57万人	53万人	47.5万人	36万人	38万人

(3)広報活動

鹿児島中央駅、広島駅、東京モノレールや雑誌、観光パンフレットで広告、旅行会社、バス会社、ホテル、レンタカー会社を訪問して会館の宣伝

(4)平和活動

8月15日に「平和へのメッセージ from 知覧スピーチコンテスト」を実施

まとめ

1941年太平洋戦争が始まり1944年頃になると日本の敗戦が色濃くなり知覧から沖縄戦に参加すべく「大刀洗陸軍飛行学校知覧教育隊」S16～S19までは飛行兵の訓練場として使われ、その後、特攻兵の出撃地となる。439名の少年兵が命を捧げた。さらに各地から出撃した1036名もの特攻隊員が戦死している。戦争が起こした悲劇を忘れてはならないと思う。

以上

語り部 ■■■さん  
知覧特攻平和館 ■■■ 館長